卒業生によるボランティア活動
グループ
“わ”情報ぎゃらりー

2000年　9月
第12号

TEL(078)743-8101
FAX(078)743-8103
神戸市ｼﾙﾊﾞｰｶﾚｯｼﾞ社会還元ｾﾝﾀｰ　ｸﾞﾙｰﾌﾟ“わ”情報誌編集部

ボランティアに想うこと

福祉部会 G1部会長　岡　雄

シルバーカレッジⅠ期生の入学試験で、問題の最後は作文。題は「ボランティアについて」でした。それまでサラリーマン（尖兵）だった私は、自分のことで精一杯。正直いってボランティア（義勇兵）という言葉すら考えつかなかったので、いささか慌てたものでした。学生時代にバスケットボールで協会のお手伝いをしていたことを思いだし、なんとか試験場を出てきましたが、ボランティアに対する意識はその程度のものでした。

ところがシルバーカレッジに入学でき、１年３ヵ月後に起こった阪神・淡路大震災のあと、シルバーカレッジにボランティア・センターが発足し、センター長に祭り上げられ、それから、カーボランティアの仕事についてからは、すっかり気持ちが変わってしまいました。６０年生きてきて他の人に尽くすことが、いかに楽しいか、もちろん毎日の糧を得なくてもやっていける余裕（年金）があったからではありますが、ボランティア漬になってしまったのは事実です。

カー・ボランティアの仲間は少数でした。震災で頭を強打し、意識不明の重体から回復し、リハビリにに通う少女を病院への送迎から始まり、仮設住宅からの通院、付き添う身内の人が、高齢になって動けない障害者を施設までの送りむかえ。バスとかタクシーでも通園不可能な障害児の移送サービスなど、ある時は、言葉が通じないだけに、危険を感じつつ活動することもあり「もっと助っ人がふえてくれたら…」と心から思ったものです。「手伝ってあげたいんだが、もし事故でもおきたら…」というのが参加していただけない最大の理由です。

ところで、ボランティア活動をしていて痛切に感じることは「お手伝いをして上げている」という気持ちを絶対に持ってはいけないということです。我々に協力を頼んで来る人たちには、よくよくの事情があってのことで、自力で困難を克服しようと努力されて、なお困り果てた人たちであるのです。心からのお付き合いを考えることが必要な反面、安易な同情も禁物であるということが分かりました。

いま、阪神タイガースの監督をされている野村克也氏は、南海の監督からロッテの捕手に降格されたとき（1978年=42 才）『生涯１捕手』と心境を語りました。私もシルバーカレッジの１期生として再び学びグループ“わ”に入れてもらったのですから、車を走らせながら「生涯１ボランター」として、利用者には「ありがとう」と喜んでもらえ、社会に還元できるよう、頑張っていこうと思っています。手伝ってやろうー という人がたくさん現れるのを心待ちにしながら…。

ボランティアに想う ---------- 1
『KSC みんなのふれあい2000』 ----- 2
囲碁・手芸・歌唱 ---------- 3
折り紙・ゲーム・絵手紙 ---------- 4
カラオケ ---------- 5
ニュースポーツ ---------- 6
ターゲットバードゴルフ ---------- 7
思いは一つ・『村まつり』に参加 ------ 8·9
『ふれあい2000イベント』写真 ----- 10·11
部会からの呼びかけ ---------- 12
『のばら学園』園児の笑みとともに -- 13~16
基調講演『フォーラム福田川』------ 17·18
“わ”事務局から ---------- 19
お知らせ／後記 ---------- 20

KSCみんなのふれあい2000

『KSCみんなのふれあい2000』を終了して

グループ“わ”代表　中島洋吉

「KSCみんなのふれあい2000」イベントは在校生と卒業生が一堂に集まり交流していく中で、親善と心身の健康増進を図っていただき、さらに在校生・卒業生の『枠』を取り払って、シルバーカレッジ創立の理念でもある『地域社会への還元』の輪が広がることを目的に企画いたしました。
実施に至るまでには、ボタンの掛け違いなどで多少のトラブルも発生しましたが、実行委員および当日の運営に参画していただいた方々の努力で、イベントに参加していただいた沢山の方が楽しそうにプレーし、談笑されている様子を拝見して、この“イベント”を企画して良かったと実感いたしました。みなさまに心からお礼申し上げます。今回経験した問題点を次回に実施されるイベントに反映させて、さらに多くの人が楽しめる企画にしたいと考えております。

次回の【イベント】として、2001年1月17日～9月30日の間、実施されます『神戸21世紀・復興記念事業』に参画する形で、1月20日土曜日の午後を、シルバーカレッジのホールを使用して、一般市民および震災時にしあわせの村の施設でボランティア活動をして下さった人や、周辺の仮設住宅に入居しておられた人などにも参加を呼びかけて、「音楽を中心としたイベント」を行うべく、現在関係部署に折衝をすすめております。
近く、実行委員を立ち上げ実施の詳細をつめ、皆さんに情報をお伝えしたいものと考えております。ご期待下さい。そしてグループ“わ”の活動にあなたのご理解とご支援を心よりお願い致します。

対抗囲碁大会を開催して

囲碁担当　足立幸夫

Gr1室は人が溢れる。が、静寂と緊張。前半の対抗戦は現役生が優勢であったものの、後半にOBが1点差で逆転。勝敗は最終戦の木谷　五段対山本　六段の対決にかかってきた。熱戦の結果、現役が勝ち1点を挙げ、これで双方無勝負・引き分けとなり、和気あいあいのうちに大会を終了しました。来年度はもっと広い会場で、より多数の人が参加できることを願っています。

ふれあい2000の機会をえて

手芸ﾌｧﾝｼｰﾜｰｸｽ　大谷峯子

手芸クラブの活動を先輩方に見て頂くため、手作り作品を陳列。在校生も交えて来客しきり。作品を手に『可愛いい』『素敵！』とお褒め頂きました。
これを機に「きものﾘﾌｫｰﾑ」の指導をと、先輩お二人からのお約束をいただけた。部員一同大喜びです。“わ”ﾒﾝﾊﾞ-との新しい交流・進展を心から願っています。

歌唱教室を開催して

KSC男性合唱団　詫間信俊

音楽室は朝から満員の大盛況。桐朋学園大ﾋﾟｱﾉ科卒阪田みゆきさん（伴奏）・「ｺｰﾛKSC」・5期生山田喜久子さんの友情参加も得て、古くから親しまれ愛唱されてきた日本の叙情歌・世界の名歌、椰子の実・浜辺の歌・夏の思いで・ﾛｰﾚﾗｲ・遠くへ行きたいなど25曲を歌った。
最後は「今日の日はさようなら」で大変に爽やかな夏のひとときでした。

一枚の紙から……

「折り紙」と「折り染」木原愛子

『折り紙』は15cm正方の紙から金魚に、蛙に、鶴に、と立体的に変わりゆく過程が面白い。一方『折り染』は小さく折った紙を染めて、開く瞬間がたまらない想像の世界にひたれる。染め上げた紙は、ノートカバー、箱、団扇、人形など身の回りを美しく装う。多くの方が体験下さって有難うございました。

「和紙染めて団扇張り替え交流会」

愛子

レクリエーションソング・ゲームコーナーで

担当　門脇淳子

高齢者や子供たちの集まりですぐ役立つソングや踊り、ゲーム、手品など体験学習して頂いた。思いっきり歌って踊ってストストレス解消を。ロープ手品で脳の刺激を。熱心に取り組む皆様のお顔が一段と輝いて見えた。ここで体験されたことをボランティアやコミュニケーションの場で、うまく活かして頂けたらと思う。在校生と卒業生が意気投合し、「楽しかったワ。またやってね」と喜びの声を頂いた。

絵手紙の書き方では

担当　豊永哲三

はじめて絵手紙の書き方を習った。簡略化した筆づかいの中にイメージそのものが画面に浮び、色彩と相俟って美しい芸術だと思った。

そこには

○　簡素の美

○　力の省略

があって絵の極地のように受けとめられた。

カラオケ教室を開いて

カラオケ部　服部裕

香西かおりの「望郷十年」をみんなで練習した。
初めに作曲家（聖川湧）の指導ﾃｰﾌﾟを聴き、歌うポイントを理解してもらう。次に部員が歌い、ついで参加者が歌い大いいに盛り上がった。参加者 28 名と盛況だったが、他会場と掛け持ちの参加者の出入りがあったのは止むを得なかった。

おもしろマジック体験

ﾏｼﾞｯｸｸﾗﾌﾞ担当　田中　剛

ふれあい大会で体験教室を開催して当初予定人員にほぼ近い 35 名参加。
恐る恐るの取り組みであった。参加者も一つ二つと経験してゆくにつれ、だんだんと興味と楽しさの中にはまる。
体験を終え、自分の技術を我が家で披露できる喜びを「胸一杯」にして帰宅されたことだろう。

救護班

ニュースポーツ

スポーツ総括委員　則武　勲

暑い時季のスポーツには、各種の問題がありますが、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ体験として6種目を取上げた。ﾍﾟﾀﾝｸﾞ・ｼｬｯﾌﾙﾎﾞｰﾄﾞ以外拝借の用具で開催とした。参加者220名。すでに2～3種を体験済み、今回全種目にﾁｬﾚﾝｼﾞした人もあった。準備・運営・参加と多くの方によって納得の成果でした。

笑顔で終わって

囲碁ボール担当　男谷照夫

プレイヤーの声から「五目並べ、ｺﾘ！」「むつかしい！」「思うようにならんなｱ」「値段幾ら?老人会でやりたいなｱ」「奥が深く味があるなｱー」と。相手を喜ばせ、自分も喜び49の穴をめぐってのゲーム。穴が大きく見えたり、小さく見えたり、和気あいあいの中で「ありがとう！」の、お互いの声で終わった。

カローリングって？

担当SLS　牛尾祐介

36名（6組）の参加。全員が始めて。はじめにルール説明（ﾘｰﾀﾞｰと称しても前日に公式ﾙｰﾙ書を始めて読んだ。とかで…）。滑り出しは順調で、とは言えませんでした。が、見ていると簡単。自分にもできる！と、参加者増大。終了時刻のため断るぐらいの人気がありました。次回もこれです！！

フォークダンス

担当　高杉彰太郎

事前の参加申込者から一人また一人と辞退の連絡が入り、当日の体験参加者がおられるのかと不安を抱きました。ふたを開けてみると予想外に多くの方の参加があり大変嬉しく思っています。皆さんにお礼申し上げます。今回ﾌｫｸﾀﾞﾝｽを体験し、その楽しさを実感した方々が、ひき続き我々と共にその楽しさを享受されることを希望します。

ターゲットバードゴルフ

担当 SLS　糟谷貞夫

これは、ゴルフを誰でもが気楽に楽しめるようにと考案されたﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂだ。暑い中を50名近くの参加があって予想外だった。人気のｸﾞﾗﾝﾄﾞゴルフと異なり『球』が空中を飛んで行くのは、昔ゴルフに熱中した高齢者には特に面白い。因に「我こそは！」とゴルフ自慢の方々が参加されたように思う。やって見ると案外難しく、だからかえって面白く奥が深いのだ。

ﾀｰｹﾞｯﾄﾊﾞｰﾄﾞｺﾞﾙﾌをはじめて体験して

“わ”事務局　横山忠明

ﾀｰｹﾞｯﾄﾊﾞｰﾄﾞｺﾞﾙﾌの体験！ ﾊﾞﾄﾐﾝﾄﾝの羽？をｺﾞﾙﾌｸﾗﾌﾞのｱｲｱﾝで打つ！ 受け皿のﾈｯﾄに入れば加点。ｺﾞﾙﾌﾎﾞｰﾙを打つようにｸﾗﾌﾞを振る。羽根が飛びすぎ駄目。やはりｿﾌﾄにしなければと気付く。ｱﾌﾟﾛｰﾁはやはり難しい。ｺﾞﾙﾌでも同じだ。

ペタンクや炎天下にも友を得る

担当　中村恵一

文字通り夏の絶頂のペタング大会となった。久しぶりの登校で在校生に声掛けのOBｸﾞﾙｰﾌﾟなど勝敗よりふれあいが中心のこのスポーツにピッタリの光景が終日展開された。

“ｺﾐｭｰﾆｹｲｼｮﾝ・ｱﾝﾄﾞ・ｱｸﾃｨｳﾞｼﾆｱの祭典”これほどまでに親しげで、楽しそうな参加者の汗顔は久しぶりだ。南仏生まれのこのスポーツがまたこれほど青芝の広場にピッタリとは想像もできなかった。世話役の我々にも最高のねぎらいであった。

「思いは一つ」

イベント実行委員長　松井　孝

このたびの「イベント」を終了するに当たり、実施担当者としての思いを簡単に述べさせて頂きます。

総勢約１８０名の方たちの献身的なご協力によって、文化部門・スポーツ部門が無事終了したことは本当にありがたく、厚くお礼を申し上げます。
各会場の様子を窺い、参加者の皆さんが思いを一つにして楽しんで頂いたものと自負しております。

今後も在校生と卒業生の皆さんが志を一つにして行動されんことを強く希望いたします。

しあわせの村まつりに参加して

地域ふれあい部会長（C部会）大坪　英二〔福祉Ⅳ〕

7月29日『しあわせの村の第10回村まつり』（20世紀最後の村まつり）が行われました。台風が九州西方で停滞、天候が危ぶまれましたが夕方一時的に空が暗くなり、今にも降雨かと心配しましたが雨も降らず、無事村まつりが終了しました。

本年、Ｃ部会を引き受けたものの、イベントについては初めての試み。『村まつりふれあいショップ』に出店依頼を受け、先輩諸氏にアイディアを求め販売品目を検討の結果、本年も輸入フルーツの販売に主体を置くことになる。

出店は35店舗、午後２時30分から一斉に搬入。カレッジからAB部会（昔あそび）、C部会（商品販売）および在校生のボランティアグループの３チームが出店を行った。他の店舗ではビール、ジュース、クッキー等のお菓子・日用雑貨・手作り小物等の販売、およびゲームを行う出店がありました。また特設ステージにおいては、盆踊り・ゲーム・ショー等、来村者が楽しめるイベントが行われていました。

時間が経つにつれ来村者が増えて賑わい、我々和気藹々のうちに商品完売に努めました。午後８時一斉消灯！…何事かと思ううちに芝生広場でレーザー光線と仕掛け花火による光のファンタジーショウが始まり、大変美しく、来村の人々に大いなる感動を与えたと思います。

『しあわせの村まつり』は地域の子供からお年寄り、また阪神大震災により同村の仮設住宅に住んだ人々等すべての来村者が楽しみながら交流を深めることができる楽しいイベントとして深い感銘を受けました。

しあわせの村まつりに参加して

出店「遊びのコーナー」雑感

生活文化部々会長　松本 輝雄

6月9日、突如むら祭りの「遊びのコーナー」出店の依頼状を渡される。前任者から何も引き継ぎを受けていないので青天の霹靂、泡を食った。

昨年はキャンディの首飾り・絵葉書創り・プラスチィクのキーホルダー作りをしている。

遊びのコーナーとは、単なる遊びではなく、物作りの中から遊びを見出すのが狙いか。そうなると最近は物を作るという事が、かいもく無いから困ってしまった。相談をする人もなく悩んでいたら、妻がアイディアを出してくれた。それは以前から、彼女が六甲山牧場を訪れる人たちに「羊作り」を体験してもらっているものだ。

一から作ると難しいのではと考え、予め作っておいた胴体部分に羊毛を絡ませて、角はそれらしく・顔はそれぞれの好みの雰囲気に・ボディはあくまでもまろやかに ふっくらと…“羊”の出来上がり。

「ふっくらとした毛を扱うと心を和ませてくれるのでは」と妻はいう。

これに飛びついた！ 早速作り方講習会を2回開く。各期世話人が集めてくれた参加者は、自分で作るだけでなく当日来場者に教えねばならないので、習得には結構四苦八苦したようだ。

出し物も一つでは淋しいと思い「折り染め」を木原愛子さんにお願いしたら以前に作ってあった“梟”も戦列に加わることになった。

男の子用に一昨年も実施している「割箸グライダー」を考えたが、参考資料が無い。たまたま納戸に入ったら「よく飛ぶ紙飛行機集」という本を発見。その中に割箸グライダーを見付けほっとした。

グライダー作りの男性参加者も、生涯スポーツ(SLS)の仲間に頼んだら快諾してくれ、目途がついた。

グライダーは使用済みの葉書に図面をコピーし、割箸とセットして作り方を教えればよいと簡単に考えていたが、印刷するにはくわえ代が必要でどうしても左右・上下均等に印刷できない。苦労したが大地二郎・糟谷貞夫両氏のお陰で何とか様になった。

当日暑い中23名が奮闘、心配していた来場者も400名余りを数え、子供達とコミュニケーションしながら楽しく遊べたことは望外の喜びであった。

ひとえに皆様方のご尽力のお陰と厚くお礼申し上げる次第である。

カシ
ロー
ッフ
ンル
グホ
鈴国
投番
けボ
ール
ルル
会場
ード

ふれあい2000

部会からの呼びかけ

…福祉部会からのお願い…

福祉部会 介助活動部会長　後藤　慶子

8月3日（木）、福祉部会では各期世話人が集まり中央区特養「真愛ホーム」での、ボランティア活動について下記の話し合いをしました。

◆ 翌月のスケジュールと活動日程の確認について

◆ “わ”メンバー要員の確保について

・中央区の“わ“会員は現在10数名であること

・会員ご本人の健康上に問題が生じてきたこと

・ご家族の事情で活動に支障が生じてきたこと

・限られた会員に活動の過重が見られること

（すでに地域社会で活動をしている会員に加えての活動をお願いしている現状のこと）

など、いろいろな問題に付いて率直に話し合いをし、そこで下記のお願いを皆さまに呼び掛けることになりました。

◆ 中央区の「真愛ホーム」から毎月活動の依頼があり、既にこの活動は1年以上継続しています。3・4期生の方々に1ヵ月／1回、2ヵ月／1回、3ヵ月／1回の活動参加とご協力をお願い致します。

「真愛ホーム」：買い物時の外出介助（月曜日 p.m.2時～3時すぎまで）

：入浴後のケア（水・土曜日 a.m.10時～12時まで）

この他に、お花見・夏まつり等のイベント時の介助活動もあります。できれば、地域からあまり遠くない方にお願いしたいと思いますが、その限りではありません。私たちも必ずこれから歩く道ですので、あいている日を・時間をご援助くださいませんか。この活動を継続するために是非、皆様にご理解とご協力をお願い致します。お問い合わせは：後藤　慶子　（593－5440）

宮城　智子　（521－3391）

井内　宇一　（521－8168）

柳内　隆治　（583－1774）

ローンボウルス大会のお知らせ

8月に開催した“KSC みんなのふれあい2000”引き続きﾌﾙｰﾌﾟ“わ”の会員や卒業生、在校生に加え、近隣の高齢者にも声を掛けてﾛｰﾝﾎﾞｳﾙｽで汗を流し、健康増進を図る目的で下記の企画をいたしました。皆様も奮ってご参加ください。

開催要項

1. 日　時　平成12年11月11日（土）　雨天延期15日予定
   午前8時30分より午後1時30分
2. 場　所　しあわせの村・ローンボウルス場
3. 会　費　一人当たり　500円
4. 申し込み　下記の申し込み書に記入の上、SCロビー設置の投函箱に入れて下さい。なお、申し込みが多数の場合、抽選にて決定し、抽選外れの方だけお知らせします。
5. 締切日　10月31日（火）午後4時　抽選日　11月3日（金）
6. 競技方法　トリプルズ（1チーム3名で構成、1エンド1名投球数3球、チーム内1名　女性を含むこと）
7. 未経験者に対する練習日　11月　3日（金）AM　9:00-11:00
   ローンボウルス場にて

きりとりせん

参加申し込み書　（なお、会費は当日会場にて徴収します）

申し込み代表者名

①ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ08

代表者　住所・電話

他の2名　②ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ08

③ｺｰｽ・ﾅﾝﾊﾞｰ08

この大会に初参加　します。　①　②　③　（○印を入れて下さい）

過去の大会に参加　しました。①　②　③

…散歩の介助に優しい手を…
…『のばら学園』園児と明るい笑みとともに…

のばら学園散歩ボランティア

グループ“わ”垂水会
福原　克巳〔福祉Ⅰ〕

神戸市立『のばら学園』（垂水区大町）には就学前の成長過程でなんらかの病気や障害のために成長・発達が遅れている子供たちが通っています。現在６学級・53人が在籍しています。

学園では集団生活や遊びを通じて生活習慣や社会性を養っています。その一環として、毎週水・木曜日に近くの公園に行き、滑り台、ブランコ、砂遊びなどをします。学園から公園までの往復と遊びに１対１で付き添うのが散歩ボランティアです。午前10時前に学園に集まり、学園の先生方の手助けも得て、その日の行く先とお相手を示され、約２時間、サァ出発。そして帰園してから連絡帳に用件を記入します。

現在“わ”の11人が月に１～２回、都合のよい日に参加しています。おじいちゃん、おばあちゃん。とくに、おじいちゃんは珍しいらしく、喜ばれています。以下の各寄稿（アイウエオ順）は体験集で、他のボランティアは女子学生や主婦などで１回に10数人が参加しています。

ちいさなプラス　アルファー

有田　實根子〔福祉Ⅰ〕

『のばら学園』へ通ってきている子供さんのご両親を垣間見る機会がときどきあります。そのたびに、なんと明るい笑顔を絶やさない素晴らしい方たちなのだろうと思わせられます。

わが子と真正面から向き合って一日一日をその子の未来のために、精いっぱい生きていらっしゃる姿には思わず　涙ぐんでしもいます。小さな、小さなプラスアルファーに喜びを感じながら、親子が一緒に成長されているのです。

私も、少しでもお役にたてたらと可愛い手をつないでお散歩しながら反対に私自身が勉強させてもらっています。

初めての楽しい…体験！

大澤　勝〔音文Ⅳ〕

４月から毎週１回、約２時間、園児と散歩などをするのを楽しみにしております。学園の子供たちは笑顔が少なく、お話しや返事ができない子もいますが、よくなついてくれます。私は初めての短い体験ですが、体力、精神面の労苦がなく、今後も継続できるような気がします。

学園でのボランティアの先輩や学園の先生方のご指導で、子供たちが元気で明るく成長してくれることを念願するとともに、自分自身も子供たちと楽しく遊んで過ごしたく思っております。

不安は…解消

大坪　英二〔福祉Ⅳ〕

『のばら学園』散歩ボランティアに参加するに当たり、子供たちに若干の障害があると聞いて、いささかの不安がありましたが、実際に子供たちに接するとその不安は解消、子供たちも全員朗らかでいきいきと過ごしているのが感じられました。子供たちは我々の話しに理解はできるが、会話となると苦しい。反面テレビの漫画の主人公の名前を述べる子供も見受けられ、もう少し子供たちと会話が出来れば…、と思います。

散歩終了後、当日の子供についての感想を記入しますが、保護者のかたがたや学園の職員の皆様から、それぞれの子供たちの特質を我々が教えて頂くことは今後子供たちに接するために参考になるのではないでしょうか。

体験は成長のチャンス

栗田　清二〔福祉Ⅰ〕

最初にお話があった時、男性で年齢的にも果たして大丈夫か。もし何かあった時には。と、考えたが案ずるより生むが安しというか 体験は成長のチャンスという経験ができました。特に子供は成長していくなかで色々な経験にぶつかり、そしてそのつど自分自身に問いながら、己の方向を見い出していくものだと感じます。

家族の方はさぞや一日が長く、帰宅するまでは不安で一杯であろうと思いますが、子供さんの状況をしっかりと掴み、粘り強い気持ちで、じつと見守り続けていくことではないか、家族にも耐える力が必要だと言えることでしょう。

誰にも辛く苦しいことがあります。しかしそのことから逃げずに真正面から受け止め、誠実に対処することが本人の成長につながっていく事ではないでしょうか。

教室で廊下で運動場で会った時ニッコリ微笑んで握手を求められた時、心と心が通じたと感動で一杯です。

帰り道のすがすがしさ

正司　徹夫〔福祉Ⅰ〕

始めたころは子供たちとどのように関わったらよいのか、いろいろと戸惑うこともありましたが、今では少し様子がわかってきて余裕をもって取り組むことができるようになりました。健常者よりも寧ろこの子供たちのほうが自己を素直に、思うままに表現してくるのではないかと思ったりしています。

現在、月１回ではありますが、孫のような子供たちとのふれあいを心待ちにしております。いまでは生きがいのひとつとなり、可能なかぎり続けたいと心しております。

学園での活動の後、帰途につく道すがらのすがすがしい気持は、何とも言葉では言い表せないものがあります。それが何よりも、やりがいを感じ、続けられるのではないでしょうか。

今日のパートナーは？

杉田　明子〔福祉Ⅲ〕

今日のパートナーは、どんな子かしら？
張り出された割り当て表から、ネームカードをさがしだし、顔写真と特徴を頭に入れる。そして送迎バスの到着を待つ。
おはよう! おはよう! と賑やかな声といっしょに、かわいい王子様と王女様のご到着。教室に入ってパートナーを見つけ出す。二度目や、時には三度目の子もある。そんな時はもう慣れたもの。笑顔で甘えてくる子、照れながら手を差し出す子、みんなみんな可愛いいー。
“どうぞ今日も楽しいお散歩ができますように”と念じつつ、しっかり手をつないで　さあ　出発！！

年寄りとふれあうチャンス

谷口　一彦〔福祉Ⅰ〕

“曾孫と散歩”こんな思いで続けているのが、散歩ボランティアである。
お相手は障害児施設に通う幼児たち。最初は接し方に戸惑ったが、慣れると特に問題はない。何回か通うと、顔を覚えた子供がすり寄ってくるので、忘れかけていた子供や孫達とのふれあいを思い出させてくれる。

ところで、障害児は程度の差はあるが、総じて意思の表明が充分ではないから、その意図を早く察して上げることがベターだと思う。初めの頃、様子が変だと察するのが遅れて漏らした子や、意図が分からないままゴテられて、オンブして帰ったこともある。

園長先生の言によれば、このようなボランティアとの付き合いが、社会体験になり、やがて成長して、健常児の通う小学校に入ることもあると言う。

いまや核家族の時代、年寄りとあまりふれあうチャンスの無い子供達に、せめてものふれあい体験ができれば、“爺と婆”の存在意義もあると思うや切！。

純真な気持ちもらう

福島　弘美〔国際Ⅱ〕

福原克巳さんに誘われて、幼い子供達との街中散歩が私のスケジュールに入ってきた。

元気よく先へ先へと走っていく子、甘えて「おんぶ」とねだる子、公園の滑り台に熱中する子、静かに砂いじりをしている子。一人一人個性が違うが、純真な気持ちがこちらに伝わってくる。

ボランティア活動を継続するには、興味を持ち、自分も楽しむことが必要であろう。今後もできるだけ続けていきたい。

もみじ手のぬくもり

福田　明彦〔食文Ⅲ〕

『もみじ手に 温もりもらう 散歩ボラ』この川柳は、今年二月「のばら学園お散歩ボランティア」に参加したときの句である。

正直に言って、散歩ボランティア参加への動機は希薄で、人様に誘われてのものでした。初めての時は、少々不安で、自分に務まるかなー の思いが強かったものです。そんな気持ちを打ち消してくれたのは、子供たちでした。実に人なっこく、いきなり懐に飛び込んできて、小さな手を差し出してきました。その温もりは今も忘れられない。それにしても思うのだが、どうして こんなに学園もお母さん達も皆、明るのだろうとー。

笑顔が楽しみ

松本　貞子〔食文Ⅲ〕

のばらのボランティアをしてお母さんがとても明るいのでほっとしました。私達の行くのを喜んでおられるのを知り、嬉しくて元気が出ます。子供たちもとても明るく元気ですよ。たまには、やんちゃの子供もいます。
公園までの散歩ですが、元気な子供はわたしらの手を放して飛び出して行く。付いて行くのにくたくたになる時もたまにあります。

犬の好きな子、車の好きな子たまに電車を見に行くと、とても喜んでいます。私達もとても喜んでおります。先生や親御さん達の笑顔が子供の笑顔になるということでしょうね。頑張って下さい。ボランティアをして楽しんでおります。今日は男の子かな女の子かなー。…嫌われないようにと楽しくボランティアをしております。皆様も一緒にしませんか…。

『フォーラム福田川』基調報告（要旨）

グループ“わ”代表　　中島　洋吉

8月9日(水)10:00~11:30 垂水年金会館大ホールで行われた『フォーラム福田川』に関する中島氏の基調報告の要旨です。基調報告のほか「福田川の親水化の試み」に関する垂水建設事務所副所長の現状報告、パネルディスカッションおよび意見交換等が行われました。参加者は約 200名ほどもありました。

私は川とか水生生物の専門家でもなく、フォーラムで基調報告をする知識も待ち合わせておりません。今回の提案者の一人としての立場からご報告申し上げます。

私と福田川との出会いは、神戸市シルバーカレッジ・生活環境コースでの３年生の環境学習の授業に、今まで学んだことをベースに身近な環境問題を調査して先生方のご指導を受けレポートに纏める授業があります。そのテーマを選定に際し、自分の住んでいる地域の自然環境、とくに垂水区の中央を流れている福田川の実体については全く知りませんでしたので、丁度良い機会だから調べてみようと、福田川流域にお住まいのクラスメート４名の方に声を掛け、平成 9年12月から１年間調査いたしました。

川の環境調査は、川そのものだけではなく、川の流域も含めた全体を調査する必要があると考え、川の構造、地質、川を構成している池、水量、水質、ゴミ、魚や水生生物、汚水流入状況、人と川との触れ合える環境等について調べ、流域については、下水道完備前後の水質の変化、流域の「町」単位の人口の動態、公園、伝説話、行政の今後の改修計画等を調査し、さらに調査した内容を他の河川と比較することで、より深く福田川を知ることができると考え、芦屋川と垂水区の山田川の２本の川との比較をして、それらの結果を「須磨区から垂水区を流れる福田川および流域の環境調査報告」というレポートに纏めて学校に提出いたしました。

シルバーカレッジの設立の趣旨『再び学んで他のために』の理念に沿って、レポートの内容を地域に還元するように先生方から勧められ、流域の子供達に「自分たちの住んでいる地域を流れている川」について関心をもち、川に親しんでもらうことが、ひいては地域に愛着心をもつことに役立つものと考え、『福田川の川辺を歩こう』の小冊子を作成いたしました。

福田川の調査結果については、後日詳細な報告をさせてもらうとして、今日は福田川の実態に少し触れて、子供達が安心して川に親しんでもらうには、私たち大人がいかに水辺環境の保全に取り組むべきかについて、提案させていただきたいと思います。

福田川は須磨区の落合池を源流にした9970mの本川と権行司川、大門川などの 6本の支川よりなり、昭和13年と昭和45年の大雨により何度か氾濫したため、上流の奥畑河川広場までを昭和45年～昭和51年に、下流は水道橋までを昭和52年～昭和60年にかけてそれぞれ改修工事が実施された結果、大雨にも耐えられる現在のような深い川床のコンクリート護岸の川になっております。

幸いなことに他の都市河川のように、雨水を流すために真っ直ぐにした三面コンクリート張りの川ではなくて、明治19年当時の地図とあまり変わらない蛇行した川筋であり、また川床も自然のままです。そのため川には沢山の種類の水生生物や魚が生息できる環境が残されています。水生生物では大きなモクズガニ、アメリカザリガニ、カワゲラ類、ヤゴ、サワガニなど、そして魚では、河口には大きなボラ、中流から上流の淵には大きなコイのほかにフナ、ドジョウ、等もいます。最近では、福田小学校の前のあたりでアユがいたという話も聞かれます。それほど水質は綺麗で、武庫川あたりの水質と大差ないのではないかと思われます。

福田川の水質は、『生活環境の保全に関する環境基準』により、「少し汚れた水、類型Ｅに指定されています。生物化学的酸素要求度(BOD) が2.3mg/l 、浮遊物質量(SS)が19mg/l、溶存酸素量(DO)が13mg/l。これらの値からは、さらに上のクラスの綺麗な類型Ｂに入る水です。汚く見えるのは、ゴミが多いのと、少ない水量、沢山の着床藻、水の透明度が低く、水の色がやや緑灰色や黄緑色をしているからだと思います。水の色は、源流の落合池で発生の植物プランクトンや上流の地層による影響と考えられております。

特にこれだけは何とかしないといけないと感じましたのは、多量のゴミです。投棄された自転車やバイク等の粗大ゴミ、一番多いのがビニル袋、ビニルシートそして発泡スチロール類、次に多いのが空き缶やペットボトル類。家庭から出される一般廃棄物のうち容積比で約 6割を占めるのが容器包装ゴミといわれます。

都市にとって「川とは何か…？」、それは紛れもなく「捨て場なのだなあ…」という印象でした。ゴミだけでなく雨水を海に流すための処理場としての量の捨て場でもあり、かつて下水道不備の当時は工場廃液や家庭排水等の汚濁水を流すための質の捨て場と考えられてきた思想を体現して行く過程で川を施設化してきたのだろうと思います。その結果が都市市民の意識のどこかに川を自然と認めようとしないものがあって、ゴミの投棄が平気で行われ、また洗車した排水も平気で側溝に流しているのではないかと考えてしまいます。

もう一つ強く感じたことは、子供たちが川で遊んでいるのを見掛けることが非常に少なくなったことです。私たちが子供のころは魚捕りに夢中になるなど、昔の子供たちは自然の中での遊びから自然の貴さ、摂理、掟などを学びました。私たちの体験の一部でも今の子供たちに伝えることが私たち大人がなすべきことと思います。

水辺は自然と触れ合える身近な場所であり、川は自然の営みと人間の生活や活動によって生ずる諸々の物質が交わる場でもあり、自然と人との関わりを学ぶこともでき、地域の環境問題を考える契機にもなります。

福田川には最近遊歩道、水辺広場、高水敷を歩いたり、植物が根付いたりできる構造に替えるなど、水辺で楽しめる環境整備が行われてきております。一方で水辺から沢山の種類の水生生物や魚等が消えてしまい、川辺には相変わらず投棄ゴミが散乱しております。

まちづくりの根本課題は、「まちの記憶の再生とその共有である」と聞いております。福田川は私たちにとって心の拠り所、憩いの場として、掛替えのない財産であり、これを大切に守り育て、次世代に残していくことが私たちに課せられた責務です。この１年間の調査で得た多くの知見を活かした活動を続けて行きたいと考えてまいりました。福田川の流域は約10kmと長く、一部の地域だけでなく、関係のある地域団体、市民団体等に広く参加いただき、自由な意見交換により、一人でも多くの区民の方々の関心をもってもらい、川辺環境の保全育成について統一した活動を企画し、それに参加していただく目的で『フォーラム福田川』の設立を提案いたしました。

フォーラムが１回限りで終わることなくこれを機会に川辺を歩き、さらに討議を重ね、最終的には河川愛護活動の組織づくりに結びつければ、と念願して私の報告とさせていただきます。

ハーイ!!事務局です

お知らせその１

グループ“わ”のPRポスター展示
…生涯学習支援センターで…

平成12年 9月 7日、神戸市生涯学習支援センター（神戸市中央区・旧吾妻小学校）でグループ“わ”のPRポスター展示がおこなわれました。
自主的な生涯学習活動を支援します。

お知らせその２

…介護の講習会を…
終了しました

8月21日(月) ・23日(水)
在校生とOBとで参加者各20名が午前・午後に分かれて行いました。

講習の内容

第１日目：移動動作・車椅子への移動
第２日目：寝巻交換・排泄介助
など学習体験いたしました。

福永　勇さん(2期福祉)の死を悼んで

グループ“わ”　飯井 冴子

シルバーカレッジ在学中、自分はガンを手術した身体でいつまで生きられるか分からないけれど、それまで出来る限り人様のお役に立ちたいと、おっしゃっていた福永さん。

しあわせの村の仮設訪問や、絵画・書道の指導など思う存分にボランティア活動をされていた福永さん。

卒業後、グループ“わ”に入会して頂いて、その活動を期待し・頼りにしていましたのに、「身体の調子が芳しくなく、残念ながら今は入院しています。退院したらがんばります。」の言葉を残して７月27日、天国へ旅立たれました。

ほんとうに残念でなりません。どうぞ天国で思いきり絵を描き、書道を極め、ボランティア活動をつづけてくださいね。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

いろとりどりお知らせ・お願いとありがとう版

◎10月14日（土）シルバーカレッジ学園祭です。
ｸﾞﾙｰﾌﾟ“わ”ﾒﾝﾊﾞｰのﾊﾞｻﾞｰ用品提供のご協力を事務局横で受付けています。10月6日締め切りです。

◎神戸市生涯学習支援センター
『コメスタこうべ』が9月7日オープン！〔場所：旧吾妻小学校（中央区）〕
ｼﾙﾊﾞｰｶﾚｯｼﾞ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ“わ”ではｶﾚｯｼﾞ紹介と日頃の活動・生涯学習の成果をパネル展示しました。

◎13年1月20日（土）ｶﾚｯｼﾞﾎｰﾙにおいて『（仮称）1000人のゴスペル』—神戸からの鎮魂と未来—〔会期2001.1.17～9.30〕の企画について
2001年1月17日。KOBE2001 ひと まち みらいがｽﾀｰﾄします。
それは全国へ・世界へ向け「神戸からのありがとう」の発信。その一環として村内挙げて上記企画開催の準備に取り組んでいます。みんなで人生の賛歌ｺﾞｽﾍﾟﾙを「21世紀の幕開けに」歌いましょう！
詳細はｸﾞﾙｰﾌﾟ“わ”事務局から順次お知らせいたします。

◎SC卒業生によるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動は地道にしかし確かなうねりとなって人々の知るところと成ってきました。
頭上に舞い降りたビッグなプレゼント『韓国ｸﾙｰｼﾞﾝｸﾞの旅』は如何でしたか？“わ”ﾒﾝﾊﾞｰ（含家族）約200名が元気に参加できました。
この事、即ち先輩が立ち上げ共に活動してきた“わ”の運動は5年余の歳月を経て確実に認知されたと「知」るものでもありました。
至福の時を過ごされた方が、笑顔でときおり事務局をのぞいて下さるのはとても嬉しい。どうか皆さまお身体にご留意され“ひさかたの秋を”愉しんで下さい。そしてまたｸﾞﾙｰﾌﾟ“わ”の活動にご理解とご協力を下さいますようお願い致します。

編　集　後　記

◇酷暑をものともせず国内外へと休暇を過ごされた事でしょう！。
“わ”事務局のﾊﾟﾜｰも然る事ながら 編集部もfight wells up!

◇「ｲﾍﾞﾝﾄ2000」・地区からのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動・2ヵ月隔てなどで溢れんばかりの寄稿ご協力を頂き、今までに無く分厚い冊子でお届けします。また「舞いおりたｸﾙｰｼﾞﾝｸﾞの旅」は別冊子纏めです。
地区委員さんのお顔が浮びます。北区：176名 垂水区：130名 とｺﾞﾒﾝﾅｻｲ！

◇次号では各地区での*「情報ぎゃらりー」*の流れを取上げます。
地区代表諸氏からの寄稿(締切り10月末日)をお願い致します。

◇【ｼﾄﾞﾆｰオリンピック】は世界中の人々をﾃﾚﾋﾞｼﾞｮﾝに引き付ける。
願いは一つ《惑星地球号乗務員・私たちみんな運命共同体》 Y/y